

京都大学原子炉実験所研究用原子炉(KUR)
新耐震指針に照らした耐震安全性評価(中間報告)

(地質・地盤調査, 基準地震動 S_s の策定)

平成21年7月31日

京都大学原子炉実験所

内容

1. 地質調査・地盤調査(活断層の評価等)
2. 基準地震動 S_s の策定
- 3 原子炉建屋基礎盤への入力地震動評価

1. 地質調査・地盤調査(活断層の評価等)

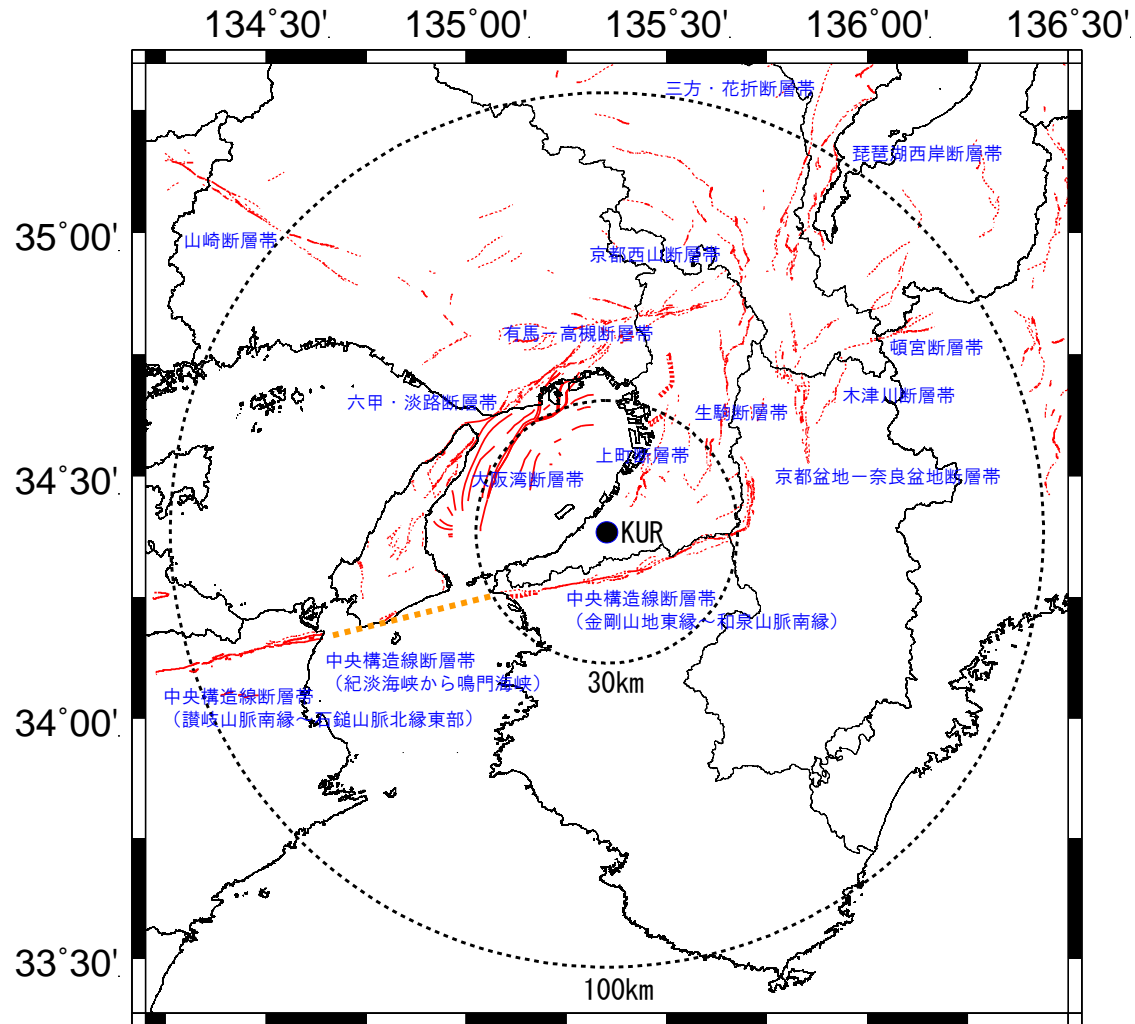
1-1 敷地周辺の活断層

1-2 敷地周辺の地質

1-3 地下構造調査

- ・地質・地質構造(活断層の評価)については既往文献調査を実施
- ・地盤調査として敷地内でのボーリング調査等を実施

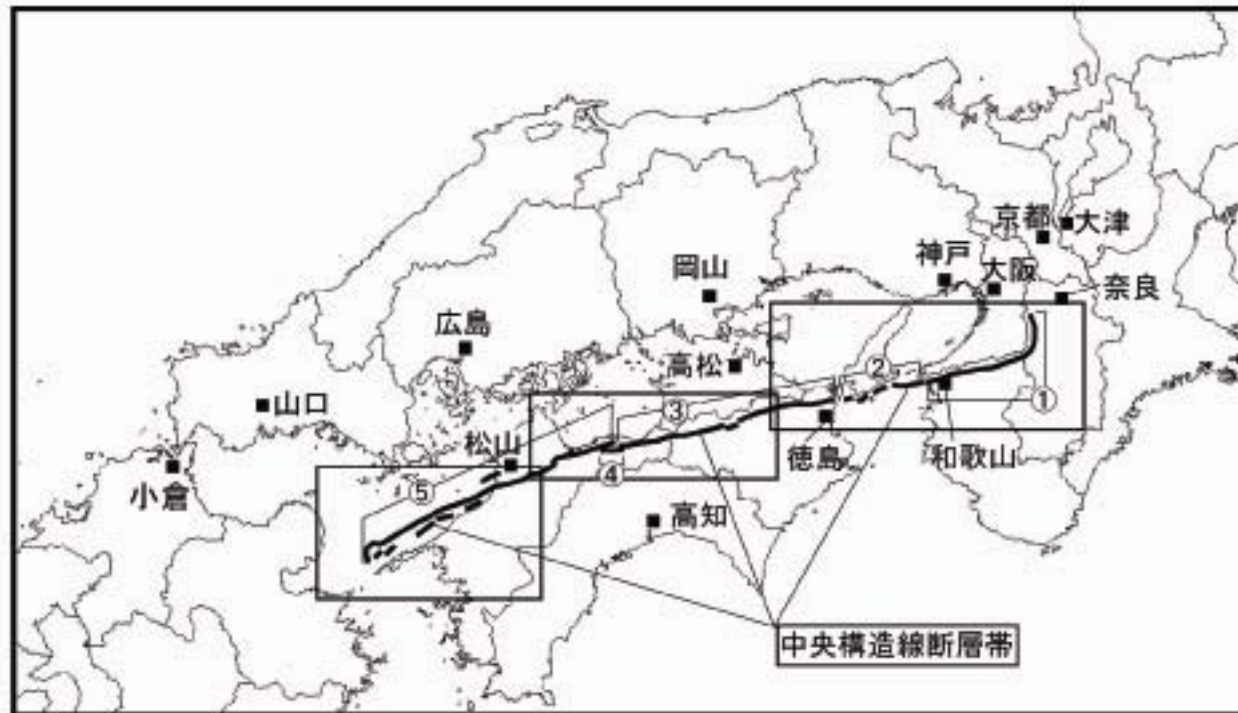
敷地周辺の活断層



敷地を中心とする半径約100kmの範囲における推本による活断層帯分布

(陸域は岡田・東郷(2000)および中田・今泉編(2002)(四国地方のみ), 海域は横倉・他(1998)による)

中央構造線断層帯全体図



- ① : 金剛山地東縁－和泉山脈南縁
- ② : 紀淡海峽－鳴門海峽
- ③ : 讃岐山脈南縁－石鎚山脈北縁東部
- ④ : 石鎚山脈北縁
- ⑤ : 石鎚山脈北縁西部－伊予灘

(地震調査研究推進本部, 2003より)

地震調査研究推進本部の長期評価によれば、過去の活動時期の違いから、中央構造線断層帯は、5つの区間に分けられている。このうち最も東側の区間である金剛山地東縁から和泉山脈南縁にかけての区間が、敷地から半径30kmの範囲内に位置している。